



浜小だより

茅ヶ崎市立浜須賀小学校

2024年1月31日

2月号

学校教育目標 「未来をひらく浜小の子」～遊ぶ 学ぶ 助け合う～

校長 青柳 和富

「ピンチはチャンス」の思いで

人と人との意思疎通を基本とする仕事に携わる身として、年明けに発生した羽田空港航空機接触事故には大きな衝撃を受けました。管制塔、海保機、日航機が連携を図りながら三層の安全対策を施していたのに関わらず、そこをすり抜けて事故が発生してしまっただからです。詳細については事故原因の究明が待たれるところですが、現代社会において欠かせない航空運輸の安全な運用を図れるよう、関係機関の連携による速やかな再発防止策が示されました。

今回の事故から想起したのがタイトルの「ピンチはチャンス」です。捉えとしては、英訳の「Adversity has big chances. (逆境【起きてしまったこと】こそ飛躍【改善、改革、視野拡大等】の良い機会だ)」に近いニュアンスです。

社会における様々なシステムは、安全かつ円滑な運用を行えるよう、定期的かつ様々な機会を通じてアップデートされますが、その基となる考え方が「ピンチはチャンス」であり、学校運営の在り方の見直しについても当てはまる考えであると再認識しました。実際、学校では事案時等において早期対応や早期解決を図ることと併せて、同種事案の再発防止に向けて施設の改修や子どもたちの意識醸成に係る手立てを講じております（鉄棒周りの事故防止対策【要追加整備】、交通安全対策、自転車の止め方の指導、友達との関わり方への啓発等）。

同様の趣旨で定期的実施している「学校評価アンケート」について、本年度の結果並びに考察がまとまりましたので、本日、コクーで配信させていただきます（1月31日～2月末日の間、本校ホームページにも掲載いたします）。学校経営計画に基づいて行ってきた教育活動について、ご回答のご協力をいただき誠にありがとうございました。本年度は保護者、教員、児童の回答の比較や前年度の同様の設問に係る肯定的な回答との割合の比較、異なる設問の回答との相関関係の分析を行うことで多角的・多面的に課題を検証できるよう努めました。回答の状況について一部ではありますが、ご紹介させていただきます。

保護者（設問数は15問）

◇肯定的な回答の割合が高かった設問

「安全な給食（98%）」「家庭への情報発信（95%）」「1年間で伸びたことがある（94%）」

◆肯定的な回答の割合が高くなかった設問

「家庭で進んで勉強（72%）」「進んで挨拶（80%）」「一人一人にとって分かりやすい授業（86%）」

児童（設問数は12問、表現も児童向け）

◇肯定的な回答の割合が高かった設問

「行事が楽しい（97%）」「友だちと助け合いながらの勉強や遊び【教育目標】（95%）」「進んで挨拶（95%）」

◆肯定的な回答の割合が高くなかった設問

「家庭で進んで勉強（88%）」「安心して過ごせる学校（89%）」「なりたいたい自分に向けて成長できる【願いや期待に
応える】学校（90%）」



アンケートでいただいたご回答は、肯定的なものについてもそうでないものについても学校への期待の表れであるとの受け留めの下、よい評価の部分についてはよりよく、そうでないところについては今が改善に向けた良い機会（チャンス）であると捉え、学校経営の充実に努めてまいります。